

「神とわたしたちを隔てるものは裂かれた！」

(ルカによる福音書 22:39-23 : 56)

歓呼のうちに主イエスをエルサレムに迎えた民衆は、たった一週間後、「殺せ」と叫びます。増幅する憎悪。為政者の無責任さ。裏切り。闇に支配された人間の姿が十字架への道で露わになります。ゲッセマネで捕えられるとき、「今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」と主イエスは言います。闇の力とはどのようなものでしょうか。主イエスは十字架上で祈ります。

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」

人は分からぬままに、神から離れ、主イエスを十字架につけるのです。これが闇の恐ろしさです。闇の力は、無自覚なままに他者を殺させるほどに、人をコントロールします。残念ながら、人はその力に対抗することができません。そのことが、十字架への道で露わにされる人間の姿に表されています。しかし、主イエスはその人間の弱さも罪深さもすべて引き受けて、その人間のために十字架上で祈ってくださいます。

そして、主イエスが十字架に上られたとき、神の介入が始まります。全地が闇に包まれ、太陽は働きをやめました。この闇は先程の悪の象徴ではなく、神の介入を表します。神によって裂かれた神殿の幕は、最も大事な至聖所とその手前の部分を仕切っていたものです。かつて大祭司だけが年に一度だけこの幕を通して至聖所に入ることができました。しかし今や隔ては裂かれ、すべての人が神にまみえる至聖所へと招かれたのです。これにより人は無自覚なままに悪に支配されてしまう弱き存在であっても、神と共に生きる道が開かれました。まさに、まことの救い主なる主イエスは、神と人とを結ぶ大祭司であり、神からの権威をまとうまことの王であったのです。

愛する独り子の命を差し出してまでも、神は人を悪から救い、ご自分と共にある命を与えてくださいます。十字架を見つめましょう。そこに、神と等しい者でありながら、人となり、へりくだって、死に至るまで神に従順であられた方がおられます。そのお姿を見る時、悪の力に支配されてしまうわたしたち人間の頑なさや弱さは砕かれ、神の愛をいただく心が与えられます。わたしたちと神とを隔てるものは既に取り去られています。主イエスは今も、手を広げてわたしたちをそこに招き続けておられます。